

雑誌『住宅』復刻版 全6期の構成

*各配本ごとに分売不可となります

| | | | | | |
|-------|-------------------------|------|---------|-------------------|-------------------|
| 【第1期】 | 第1巻(1916年)~第10巻(1922年) | 全10巻 | 総4,096頁 | 揃定価(本体180,000円+税) | ISBN4-7601-2031-9 |
| 【第2期】 | 第11巻(1923年)~第20巻(1927年) | 全10巻 | 総4,960頁 | 揃定価(本体180,000円+税) | ISBN4-7601-2117-X |
| 【第3期】 | 第21巻(1928年)~第28巻(1931年) | 全8巻 | 総3,120頁 | 揃定価(本体160,000円+税) | ISBN4-7601-2179-X |
| 【第4期】 | 第29巻(1932年)~第36巻(1935年) | 全8巻 | 総4,492頁 | 揃定価(本体200,000円+税) | ISBN4-7601-2288-5 |
| 【第5期】 | 第37巻(1936年)~第44巻(1939年) | 全8巻 | 総4,942頁 | 揃定価(本体220,000円+税) | ISBN4-7601-2370-9 |
| 【第6期】 | 第45巻(1940年)~第52巻(1943年) | 全8巻 | 総4,958頁 | 揃定価(本体220,000円+税) | ISBN4-7601-2427-6 |

推薦します

(50音順・敬称略)

次の世紀への住宅の指針となる必読の書

日本女子大学名誉教授 小川信子

1916年から1943年にかけて出版された『住宅』は、その時代の変革期に生活者の側から多角的な視点でとらえ指導的な役割を担っていたと推察される。その役割は現在でも終わっていない。生活学会の創設者、今和次郎の生活学の基礎が本誌の中に見出せるのもうれしい。生活様式の混沌としたいまの時代に、戦前の住宅改良会の問題提起を再考し、次の世紀への住宅の指針とすることができる。このたび完全復刻を心待ちにすると同時に必読の書として推薦したい。(住居学・生活学)

日米両国の住まいに関する比較研究の可能性が開かれる資料

ジョージタウン大学教授 ジョルダン・サント

米国では *Ladies' Home Journal* (1883年創刊)、*House and Garden* (1901年創刊) などの大衆向け住宅・インテリア雑誌によって、近代消費文化が発達したと言っても過言ではない。日本でこの役割を果たしたのが『住宅』であった。われわれはこの雑誌の出現に日本住宅における近代の始まりを見出すことが出来る。両国の住まいに関する出版文化を総合的に比較した研究はいまだにないが、今回の復刻によってその可能性が出てきた。英語圏の日本研究者は最近になってようやく社会史資料としての大衆向け出版物の価値を認識し始めている。いままで日本国内でさえ少数の建築史研究者にしか知られなかった『住宅』が復刻されたことで、今後さまざまな社会史研究も期待される。(日本近代史)

いま読んでもおもしろく、文化史的にも価値ある雑誌

東京大学名誉教授(故人) 鈴木博之

大正から昭和戦前期にかけて、日本は和洋を融合させた新しい中産階級住宅を生み出す。この時期の雑誌『住宅』は、建築家、住居学研究者、そして住宅に関心をもつすべてのひとにとって重要な資料である。ここにはじつに幅広い執筆者が記事を寄せていて、それ自体が文化史的な宝庫でもある。いま読んでおもしろく、また歴史的価値のあるこの雑誌の復刻は、これからの住まいを考えるうえでも役立つ。わたし自身、今回の復刻を機会に、ここから新しい研究テーマを引き出してみたいと思う。(建築学)

雑誌『住宅』

〔復刻版〕

わが国住宅の洋風化に寄与した月刊誌を完全復刻

本資料は、一九一六年(大正五)〜一九四三年(昭和18)にかけて発行された住宅改良会の機関誌『住宅』を、現在および今後の研究に有益な資料として、全6期で完全復刻するものである。

『住宅』はB5判並製の体裁を採り、二八年間で総号数三三二六号が原則として毎月一回発行された。会員への配布に加え書店でも販売され、発行部数は大正末期で五八〇〇部に達した。戦前の新旧・和洋の混在する生活の不経済を解消するためには住宅建築の改良が緊急の課題であったが、この雑誌の誕生によってはじめて住宅や生活が主題として論じられる場が確立し、一般の人びとの住む中小の住宅の重要性が社会的認知を得はじめることとなった。

わが国住宅の近代化の過程において、この雑誌が果たした先駆的な役割は大きく、日本の住宅政策、住環境、さらにはライフスタイルの変遷を鮮明に知ることでできるきわめて貴重な資料である。

本書の特長

- 『住宅』(一九一六年から一九四三年にかけて住宅改良会が発行した月刊誌。創刊当時の発行人は橋口信助)創刊号から終刊号まで全三三二六号を完全復刻。住宅近代化の草創期に創刊され、従来の住宅建築に根本的な問題提起をした先駆的な雑誌の全貌が明らかになる。
- 二八年間の長期にわたり毎月継続して発行された唯一の雑誌であり、戦前期住宅革新の一貫した流れを読み取るこゝとが出来る。
- 広告頁を完全収録しており、雑誌刊行時の世相を知ることが出来る。
- 多彩な写真・図版には写真製版の処理を施し、折込を原本通りに挿入することにより、ヴィジュアルな誌面構成を再現した。

◆監修・解題
内田青蔵(神奈川大学教授)
◆造本体裁
B5判・上製本・函入
各期平均4,400頁 詳細は裏面参照

◆揃定価
・各期ごとに異なります。
(詳細は裏面参照)
・各配本ごとに分売不可となります。

柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-15-13
Tel.03-3830-1891 Fax.03-3830-5337
URL <http://www.kashiwashobo.co.jp>
E-mail eigy@kashiwashobo.co.jp

取扱店

柏書房の関連書籍

写真でみる民家大事典

日本民俗建築学会【編】
B5判 504頁
定価(本体15,000円+税) ISBN4-7601-2656-2

日本人の住まいと暮らしを知り、全国各地の民家をたずねる(写真集+事典)。環境、景観、構造、生活、文化……あらゆる視点から日本の住生活を映し出す。

いまに伝える農家のモノ・人の生活館

大館勝治・宮本八恵子【編著】
B5判 344頁
定価(本体9,500円+税) ISBN4-7601-2583-3

民家、里山、野良しごと……明治、大正、昭和と受け継がれてきた、高度成長以前の日本のくらしを紙上に再現。徹底調査による図版1000点を収録。

里山・里海暮らし図鑑

——いまに活かす昭和の知恵

養父志乃夫【著】
B5判 384頁
定価(本体9,500円+税) ISBN978-4-7601-4118-0

身の丈にあった暮らしのヒントは里山にあった。持続可能な生活を取り戻し、次代につないでいくために、先人に学ぶべき古く新しい知恵を探る。

おすすめします

建築学・住居学

家政学

都市問題

住環境学

社会学

美術・工芸

大正・昭和初期文学

大学・短大・高専図書館

公共図書館

